

「八重垣姫」の人形 八剣神社に奉納へ

話題 キヤッチ

岡谷市長地片間町の小野安也さん(77)が亡き母の思い出の品である日本人形「八重垣姫」1体を、諏訪市小和田の八剣神社に奉納することになった。現在諏訪湖に建つ八重垣姫像のモデルとされる人形で、太平洋戦争の空襲を免れ、大切に保管されてきた。人形が作られて約80年。母の7回忌の節目に、御神渡り(御渡り)の観察や判定などで諏訪湖と縁のある八剣神社で長く保存してもらえればと決断した。

(小尾口有二)

亡き母の形見 空襲免れ80年

小野さんによると、母利子さんの実家が松本の人形店に依頼して作り、1944(昭和19)年に嫁入り道具として持たせた。利子さんと、歯科医だった夫の安郎さんは当時横浜に住んで

岡谷の小野さん



昭和30年代に諏訪湖畔で開かれていた「八重垣姫まつり」を報道する新聞を見る小野安也さん



小野さんが八剣神社に奉納する日本人形「八重垣姫」

いた。翌年空襲に遭ったが、人形は安郎さんの山梨の実

家であり、難を逃れたという。両親は49年、縁あって諏訪市中浜町へ引っ越し、人形も移した。安郎さんは60年に死去。人形は70年代に岡谷市に自宅を建てた小野さん宅に移され、同居した利子さんの部屋で保管された。

信玄ゆかりの

かぶとを持つ

八重垣姫は人形浄瑠璃文楽の演目「本朝廿四孝」に登場する架空の人物。上杉謙信の娘で、武田勝頼の恋人との設定だ。

人形は高さ70センチ。赤を基調とした着物を身に付け、武田信玄ゆかりの諏訪法性のかぶとを手に持っている。保存状態は良い。顔の部分は絹を貼った上で目や口などを描いており、確認してもらった人形店関係者も「珍しい」と話したという。

湖上花火で有名な8月中旬の諏訪湖祭。中浜町の有志は60(昭和35)年から4年ほど、関連イベントとして「八重垣姫まつり」を計画。高



諏訪湖に建つ八重垣姫像

諏訪湖立像のモデル

さうほどの「八重垣姫」を作って湖畔に盛り上げに役目という。製作は住宅の人形を模したに建つ八重垣姫像建立。当時の岩本市長から依頼を受身彫刻家小野さん宅に人形、参考にしたと

7回忌の 今後考え

今年2018で他界した利子さん忌に当たる。今後保存を考える中、は姉や弟と相談し奉納は今年20日、告の神事が行われ、人形は齋館屋られる予定。

10月26日には諏訪湖畔で人形浄瑠璃朝廿四孝 奥庭遊が上演されるなどへの関心が高まるとは「由緒あるゆえに、母も喜ぶ養になれば」と話